

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成30年8月10日

【四半期会計期間】 第110期第1四半期(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

【会社名】 愛知電機株式会社

【英訳名】 AICHI ELECTRIC CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐藤 徹

【本店の所在の場所】 愛知県春日井市愛知町1番地

【電話番号】 (0568)31-1111(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部経理グループ長 鈴木 祐二

【最寄りの連絡場所】 愛知県春日井市愛知町1番地

【電話番号】 (0568)31-1111(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部経理グループ長 鈴木 祐二

【縦覧に供する場所】 愛知電機株式会社 東京支社  
(東京都中央区入船三丁目10番9号)

愛知電機株式会社 関西支社  
(大阪市北区堂島浜一丁目4番4号)

株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第109期 第1四半期 連結累計期間	第110期 第1四半期 連結累計期間	第109期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (百万円)	17,740	19,803	78,232
経常利益 (百万円)	1,652	1,246	5,073
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,215	824	3,351
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,137	629	3,891
純資産額 (百万円)	49,004	51,578	51,377
総資産額 (百万円)	85,030	89,055	88,671
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	128.09	86.86	353.18
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	56.9	57.2	57.3

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容に重要な変更はありません。  
 また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

#### (1)財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、高水準の企業収益を背景に設備投資や雇用環境が改善するなど、緩やかな回復基調にあります。海外経済につきましても貿易摩擦などの影響が懸念されましたが、米国・中国をはじめとして堅調に推移しています。当社グループの経営環境につきましては、需要面では電力機器事業、回転機事業ともに総じて堅調ですが、競争激化に伴う販売価格の低下や原材料価格の値上げが進むなど、厳しさを増しつつあります。

こうした環境の中、連結業績につきましては、売上高198億3百万円（前年同期比11.6%増）、営業利益12億6百万円（前年同期比22.3%減）、経常利益12億4千6百万円（前年同期比24.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益8億2千4百万円（前年同期比32.2%減）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりです。

#### 電力機器事業

売上高は72億4千1百万円（前年同期比1.6%増）、セグメント利益（営業利益）は13億5百万円（前年同期比11.2%減）となりました。売上高につきましては、中大型変圧器が減少しましたが、小型変圧器、海外プラント工事が増加したことにより前年同期を若干上回りました。セグメント利益につきましては、原材料価格の上昇や売上構成の変化により減益となりました。

#### 回転機事業

売上高は125億6千1百万円（前年同期比18.4%増）、セグメント利益（営業利益）は3億5百万円（前年同期比38.4%減）となりました。売上高につきましては、ハーメティックモータおよびプリント配線板の販売が伸びたことにより増収となりましたが、セグメント利益につきましては、原材料価格の上昇などの影響を受け減益となりました。

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ3億8千3百万円増加し890億5千5百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比べ6億6千2百万円増加し644億6千2百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加10億7千6百万円、受取手形及び売掛金の減少18億7百万円、電子記録債権の増加7億2千5百万円、棚卸資産の増加7億9千9百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べ2億7千8百万円減少し245億9千3百万円となりました。これは主に、有形固定資産の減少9千5百万円、投資その他の資産の減少1億7千6百万円によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比べ1億8千2百万円増加し374億7千6百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比べ2億9百万円増加し279億5千1百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少2億9千4百万円、電子記録債務の増加4億8千万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べ2千7百万円減少し95億2千5百万円となりました。これは主に、リース債務の減少1千8百万円によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ2億円増加し515億7千8百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加3億9千7百万円、為替換算調整勘定の減少1億8千2百万円によるものであります。

自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ0.1%減少し57.2%となりました。

(2)経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社及び連結子会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4)研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は2億1千9百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,912,200
計	23,912,200

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,500,000	9,500,000	名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	9,500,000	9,500,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年6月30日		9,500		4,053		2,199

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,000		
	(相互保有株式) 普通株式 11,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,466,500	94,665	
単元未満株式	普通株式 18,500		
発行済株式総数	9,500,000		
総株主の議決権		94,665	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が800株(議決権8個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が8株、相互保有株式が7株含まれております。

【自己株式等】

平成30年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
愛知電機株	春日井市愛知町1	4,000		4,000	0.04
愛知金属工業株	春日井市大手田西町3-13-18	11,000		11,000	0.11
計		15,000		15,000	0.15

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、名古屋監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	13,391	14,468
受取手形及び売掛金	21,906	20,099
電子記録債権	6,295	7,021
有価証券	9,438	9,299
商品及び製品	3,900	4,135
仕掛品	3,566	3,817
原材料及び貯蔵品	4,287	4,600
その他	1,031	1,037
貸倒引当金	17	17
流動資産合計	63,799	64,462
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	6,036	5,894
機械装置及び運搬具（純額）	3,689	3,653
工具、器具及び備品（純額）	907	903
土地	4,053	4,053
リース資産（純額）	533	515
建設仮勘定	211	316
有形固定資産合計	15,431	15,336
無形固定資産	165	158
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	5,799	5,748
繰延税金資産	2,715	2,560
その他	959	977
貸倒引当金	200	188
投資その他の資産合計	9,274	9,098
固定資産合計	24,871	24,593
資産合計	88,671	89,055



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,701	13,407
電子記録債務	4,585	5,066
短期借入金	2,631	2,846
1年内返済予定の長期借入金	1,863	1,982
未払費用	3,056	2,272
未払法人税等	321	236
その他	1,580	2,139
流動負債合計	27,741	27,951
固定負債		
長期借入金	3,404	3,402
繰延税金負債	39	40
退職給付に係る負債	5,432	5,452
その他	676	630
固定負債合計	9,552	9,525
負債合計	37,294	37,476
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,053	4,053
資本剰余金	2,208	2,208
利益剰余金	42,190	42,587
自己株式	14	14
株主資本合計	48,437	48,833
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,488	1,461
為替換算調整勘定	1,511	1,329
退職給付に係る調整累計額	659	645
その他の包括利益累計額合計	2,341	2,145
非支配株主持分	598	598
純資産合計	51,377	51,578
負債純資産合計	88,671	89,055

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	17,740	19,803
売上原価	14,383	16,823
売上総利益	3,357	2,979
販売費及び一般管理費	1,804	1,773
営業利益	1,552	1,206
営業外収益		
受取利息	5	7
受取配当金	46	50
持分法による投資利益	36	18
屑消耗品売却額	23	36
その他	53	50
営業外収益合計	165	163
営業外費用		
支払利息	31	32
為替差損	19	79
その他	14	10
営業外費用合計	65	122
経常利益	1,652	1,246
特別利益		
固定資産売却益	0	0
ゴルフ会員権売却益		2
特別利益合計	0	3
特別損失		
固定資産除却損	1	0
特別損失合計	1	0
税金等調整前四半期純利益	1,651	1,249
法人税、住民税及び事業税	299	240
法人税等調整額	119	173
法人税等合計	419	414
四半期純利益	1,231	835
非支配株主に帰属する四半期純利益	16	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,215	824

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	1,231	835
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	107	28
為替換算調整勘定	223	192
退職給付に係る調整額	16	13
持分法適用会社に対する持分相当額	3	1
その他の包括利益合計	94	206
四半期包括利益	1,137	629
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,132	628
非支配株主に係る四半期包括利益	4	0

【注記事項】

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当第1四半期連結会計期間末日は金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
受取手形	157百万円	129百万円
電子記録債権	34	40
支払手形	627	458
電子記録債務	44	29
その他(設備関係支払手形)	6	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
減価償却費	566百万円	517百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	617	65.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には、創立75周年記念配当金25円を含んでおります。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成29年3月29日開催の取締役会決議に基づき、平成29年4月14日付で、自己株式150,412株の消却を実施しております。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本剰余金が0百万円、利益剰余金が382百万円、自己株式が382百万円それぞれ減少しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	427	45.00	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	電力機器	回転機	計
売上高			
外部顧客への売上高	7,128	10,612	17,740
セグメント間の内部売上高又は振替高			
計	7,128	10,612	17,740
セグメント利益	1,470	495	1,965

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
 (差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,965
全社費用(注)	413
四半期連結損益計算書の営業利益	1,552

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	電力機器	回転機	計
売上高			
外部顧客への売上高	7,241	12,561	19,803
セグメント間の内部売上高又は振替高			
計	7,241	12,561	19,803
セグメント利益	1,305	305	1,610

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
 (差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,610
全社費用(注)	404
四半期連結損益計算書の営業利益	1,206

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
1株当たり四半期純利益	128.09円	86.86円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,215	824
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,215	824
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,491	9,490

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 8月 9日

愛知電機株式会社  
取締役会 御中

名古屋監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 今 井 清 博 印

業務執行社員 公認会計士 市 川 泰 孝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている愛知電機株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、愛知電機株式会社及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。